

ユニバーサルスポーツづくりに挑戦

ボランティア活動を通じ地域とつながる
第一学院高等学校長野キャンパス

通信制高校、第一学院高校長野キャンパス(長野市岡田町)は、毎月学校周辺のごみを拾う「クリーンボランティア」をはじめ、地域イベントのサポートなどさまざまな形でボランティアに取り組んでいきます。昨年2月からは、目が不自由な人と健常者が楽しめる新しいスポーツ「ブラインドフラッグ」の考案にも協力。コロナ禍で実際に試す機会が持てないままですが、いずれは幅広い人との交流に活用したい、と意欲をつないでいます。



ブラインドフラッグを試しにやってみる第一学院高校長野キャンパスの生徒

青年会議所と連携して

ブラインドフラッグは長野青年会議所(同市)の青少年育成事業を担当した未来育成委員会が昨年、障害の有無にかかわらず取り組めるスポーツを通じて多様な人たちが触れ合う機会を設けようと、スポーツイベントを計画したのが発端。その一環として、ブラインドサッカーをヒントに、視覚障害がある人と健常者が一緒に楽しめるスポーツとして同青年会議所が考案しました。5人1組の2チームが円陣内の1本の旗を取るか守れるか、制限時間を設けて競います。攻守交代しながら、攻める際は4人、守る際は3人が目隠しをして円陣内に入り、円陣外から指示役が助言します。

同青年会議所だけでは単年度の取り組みで終わってしまう懸念もあり、企画運営に携わる他の団体も募集。以前から「長野灯明まつり」のボランティア活動などでつながりのあった同校長野キャンパスに昨年2月に参加を求めました。

同キャンパスでは当時の1、2年生の有志10人ほどが参加。同青年会議所が作った基本的なルールを基に、細かなルール作

踏み出す、寄り添う
ボランティア



詳細なルールを話し合う生徒たち

りを進めました。「簡単に言えば「はいはいでする鬼ごっこ」ですが、具体的に詰めていくと課題がたくさん出てきました」と、3年生の宮本あゆみさん。「音」ひとつでも、旗の位置を知らせるために音を鳴らし続けること、その音と明確に異なり、攻守の選手の区別もできる音といった課題が浮かんだと言います。昨年3月には同青年会議所のメンバーと長野市の三本柳小を訪れ、児童と実践したところ、捕まえる際のタッチの仕方など「想定外の動き」も。2年生の本田翔太さんは「実際にやってみて初めて分かることも多かったです。簡単に、かつトラブルがないようにするには、いろいろな視点が必要でトライ＆エラーの連続でした」と振り返ります。

ボランティアをきっかけに

それでも活動に参加した生徒たちは確かな手応えを得ています。活動が停滞していた昨春秋、宮本さんは県長野盲学校(同市)を訪ね、同年代の視覚障害者と触れ合い、「他者を知ることの大切さ、思い込みや壁を持つて接してはいけないことを学びました」と言います。「他人の立場で考えることができ、自分を高める場になった」と振り返るのは3年生の小林美瑠さん。本田さんは「人のために何かをして成果が出たときの達成感や喜びが、活動の原動力。成長につながりました」と力を込めます。今後について「過程を大事に楽しんでほしい」と小林さんのエールに、本田さんは「新メンバーも加えて実現を目指したい」と心えます。

同キャンパスのボランティア活動を担当する藤井海教諭は「それぞれの生徒が得意な面を見つけてカバーし合ってきました。これまでの経験や思いを新メンバーとも共有し、あきらめずに実現を目指したい」と、生徒たちを見つめています。



ボランティア活動を重視する第一学院高校。毎月の「クリーンボランティア」では生徒たちが学校周辺の清掃に汗を流す

【第一学院高等学校】全国に52キャンパスを展開する通信制高校。進路や目標に合わせた学び方を選択でき、レポート、面接指導、単位認定試験を満たして単位を取得する。地域全体を「学校」と捉えた「コミュニティ共育」を重視。ボランティア活動をはじめ、地元企業や施設での職業体験、関係者の講座を設ける。長野キャンパスには、市内を中心に約300人が在籍。